



えくび通信

令和六年十一月号(第七十七号)

恵久美を元気にする会
カラー版は
こちらから↓



世代の垣根を越えて深まる絆

「芋炊き会」恵久美を元気にする会

「いもたき」の発祥は、大洲市とされており、鶏肉、里芋、こんにゃく、しいたけなどの具材を煮込んだ鍋料理で、加藤家が藩主として治めていた350年以上前にまでさかのぼる歴史をもっている

そうです。お籠りと呼ばれる伝統行事でふるまう鍋に、各自が地元産の里芋を持ち寄ったことがそもその始まりといわれています。

恵久美地区においてもコロナ禍を経て、4年ぶりに恵



久美を元気にする会主催の芋炊き会が、去る10月6日(残念ながら満月ではなかった)の夕方、恵久美集会所前で行われました。この催しには、地域の伝統行事を守るために頑張っている郷土民藝部の子ども達と関係者の皆さんを慰労する意味も兼ねてお



り、当日は子ども達も含めて約50名の方が参加されました。里芋は岡田西の大政浩史さんの畑で獲れた本格的な地元産の里芋を提供していただきました。また野菜、鶏肉を煮込んだ少し甘めの味付けは大好評で、予め多く準備した鍋もすべて完食し、担当した料理レジェンドのみなさんも大満足の様子でした。

この芋炊き会は、若い世代と高齢者が一緒に集まり、新たな交流が生まれる機会でもあります。高齢者からは長年にわたり培ってきた知識や経験を豊富に持っています。若



い世代にとつて実体験から学べることは教科書やインターネットだけでは得られない貴重なものです。若い世代は、新しい価値観や技術に敏感で、高齢者にとつて若い世代との交流は孤立感の解消につながり、心身の健康維持に役立ちます。高齢者と若い世代が協力し合うことで地域の絆も深まります。お互いに困ったときに助け合える関係を築くことで、防災や見守りなど、地域全体の安全や安心も向上します。

松前町の他地区では、大字主催で芋炊き会を開催しているところもあると聞きます。絆づくりの一環として来年は大字恵久美主催で役員さんが企画してはいかがでしょうか。今年以上に多くの住民の方が参加されると思います。今回の芋炊き会の開催に際しては、具材の調達から仕込み、調理、テーブルセッティングなど、世代の垣根を越えた若い世代から高齢者まで多くの方に協力をお願いしました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



恵久美通信編集長

山本正司

存在感あり。恵久美壮年部

恵久美秋祭り開催

10月15日（火）恵久美伝統行事の秋祭りが開催されました。三連休明けの開催となり、町外からも応援に駆けつけていただき約40名の参加となりました。

秋祭りでもいつも存在感があるのが壮年部の皆さん。伊予警察署への届出からはじまり大字との事前打ち合わせ、大



人神輿と子ども神輿の掃除と組み立て、チラシ及びポスターなどの周知活動、当日の運行計画と人員配置そして反省会まで、秋祭りの核となっています。

壮年部の部員さんは、殆どが現役世代です。多忙な日々の中、地域行事を継続していくために頑張っています。今年、壮年部に新人さんも加わってより層が厚くなったように感じます。

部長の大政浩史さん（岡田西）を中心に、メンバーは殆ど変わらず今日まで存続しているのは、日頃から部員間の絆を深める活動を地道に続けている賜物ですね。

今年も無事に神輿巡行ができました。区長さんをはじめ役員さん、宮総代さん、愛護部さん、賄いのお接待を担当された各組の皆さん、お疲れさまでした。来年も恵久美の秋祭りを盛り上げましょう。

恵久美通信編集長

山本正司

本当にそれで良いの？

小林防災士の防災豆知識

「共助はいらないね」その言葉をとあるインターネット上で見て本当に悲しくなりました。災害が起きた時に自助、共助、公助その3本柱が命をつなぐ大切な力になります。

▼自助とは自分や家族で助かる力。普段から家具の固定やハザードマップを確認したり家に食品等の備蓄をしたり事前に備える。災害時に正しい判断で行動して助かる。

▼公助とは松前町役場や消防、警察、自衛隊など公的支援や援助のことです。

▼そして共助とは地域やコミュニティといった周囲の人達が協力して助け合う事です。現在地域コミュニティがどんどん薄れて、住民の孤立化が地方にも浸透してきています。だから「避難所で困っている人がいても自分の備蓄をあげるな！隠したほうが良い」なんて言葉が出てくるのだと思いますが、太古の人間は集団行動するコミュニティ

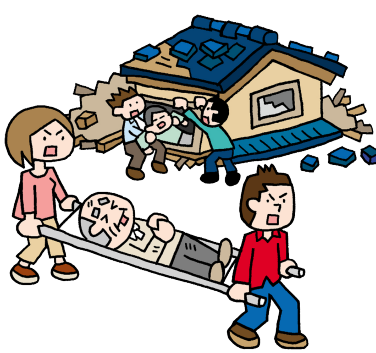
を作ったからこそ農業や建築といった文化が生まれて生存競争にも勝ったのに、その文化を捨てて孤立を選ぶというのは退化じゃないですか？

自分だけが助かる世界。防災を伝えている一人として、悔しくてたまらなかつたです。

もし自分の家族が被災して着の身着のまま避難してきた。でも、誰もが自分の事だけを

考えて食べる物も飲み物も貰えず苦しんでいたら？助け合う事なんて必要ないなんて言えませんか？

▼自宅が崩壊して閉じ込められた時には近所の人の助けを



求めないで我慢しますか？

過去の災害でも阪神淡路大震災では住民達の消火活動のおかげで火災被害をかなり防ぎました。岩手の釜石では中学生が率先避難をして小学生に

も声掛けをしたおかげで多くの命が助かりました。各地の避難所でも普段からの顔の見える関係がしっかりとした地域では運営がスムーズで避難者の心の支えとなり災害関連死の減少に大いに寄与しています。

▼地域行事はとても面倒な事のように見えたりします。正直私も恵久美に越してきた最初は字の行事が多くて、こりや大変な所へきたぞと思いましたが、飛び込んでみると結構楽しい。いやとても楽しく思っています。行事を通じて知り合いも増えるので、もし困ったことが起きたら助けられる人も沢山出来ましたし、助けたい人も沢山います。

▼地域の繋がりがこそ災害時の力になります。みんなで助かる町そんな恵久美だと私は信じています。

恵久美防災士 小林祐介

11月の行事予定

11月10日（日）

恵久美総合防災訓練

11月17日（日）

第40回恵久美文化祭